

自分らしい生活を～ときどき入院、ほぼ在宅～

病院にはそれぞれ急性期や回復期、在宅支援などの機能があります。入院病床にも種類がある中で、「地域包括ケア病床」は、「ときどき入院 ほぼ在宅」を支える役割を担う病床です。

地域包括ケア病床とは

医療や介護が必要になっても、住み慣れた街や家・施設で暮らし続けたいという方への支援を目的とした病床です。〔ウラ面に図〕

医師や看護師をはじめ多職種が連携し、治療とともに生活の場へむけて、リハビリテーションやさまざまな調整を行います。

具体的な対象者は

- ・急性期病院で治療を終えたが、自宅等へ退院するには不安な方
 - ・急性期病院の入院対象ではないものの、入院加療が必要な方
 - ・独居、老々介護など自宅での生活が難しくなり施設への入所・入居を申し込んでいるが、準備が整うまでの居場所に困る方
 - ・レスパイト入院を希望する方
- レスパイト入院とは：在宅環境の整備（例えばベッドの搬入、バリアフリーリフォームなど）や、介護者の入院や休息、旅行、冠婚葬祭などの事情により一時的に介護が困難となった際の在宅介護のサポートのための入院



入院までの流れ

外来で入院が必要と判断された方のほか、急性期病院からの転院、地域の医療機関からの紹介、地域包括支援センター・ケアマネジャーからの依頼のもと、入院判定や面談のうえ入院可否を決定します。

入院期間と過ごし方

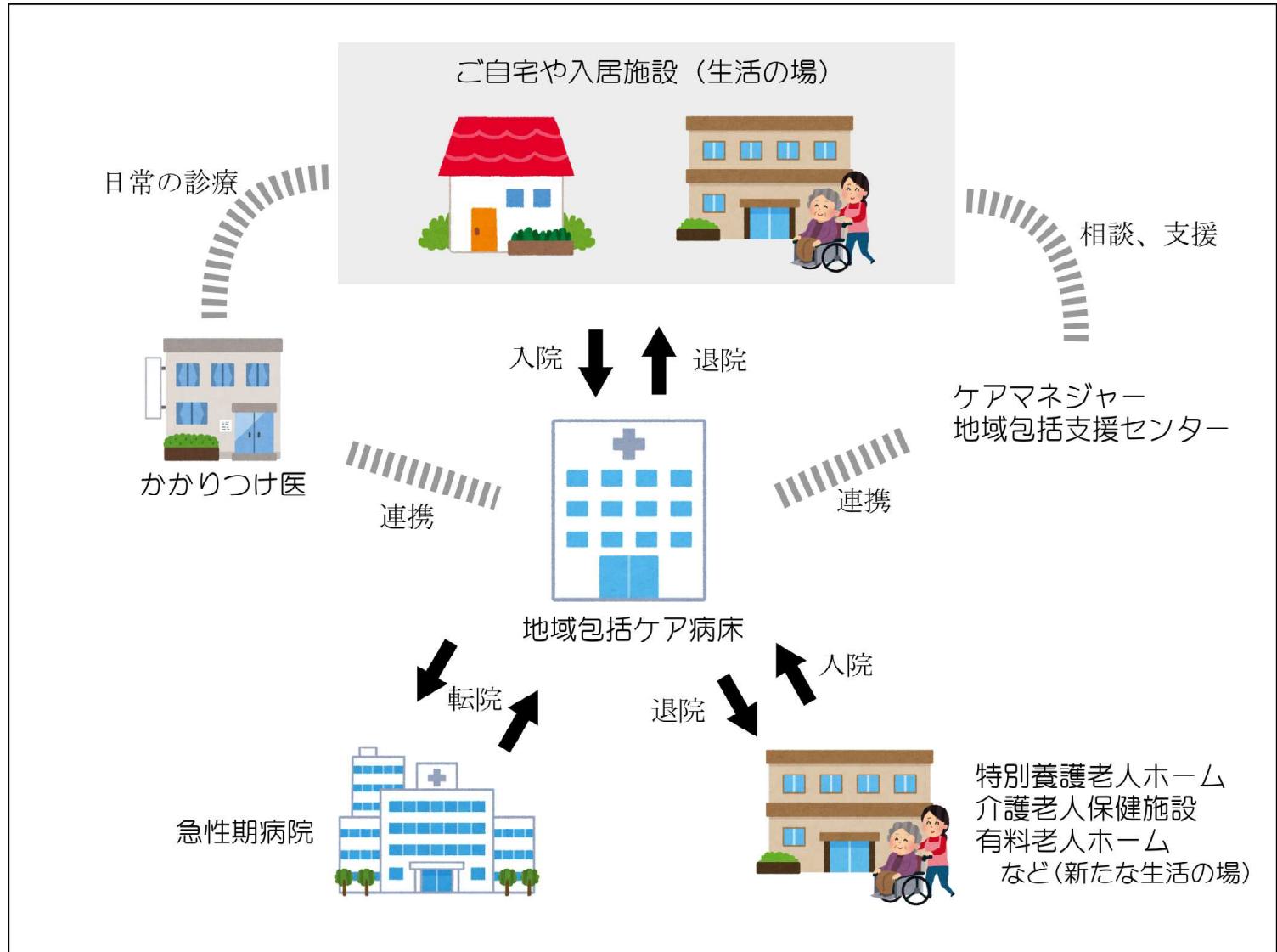
自宅や施設へ帰る（行く）ために、治療はもちろん、階段やトイレまでの移動距離など環境に応じたリハビリテーションの提供や、その方に合った食事方法、食形態（硬さや大きさなど）の相談を行います。

必要な方には介護保険の申請や福祉制度の利用相談を行います。

医師や看護師をはじめとする病院の多職種が連携して、本人、家族やケアマネジャーと



〔ウラ面に続く〕



〔オモテ面から続く〕

カンファレンス（会議）を行います。

退院後も安全に過ごせるように、ご自宅にベッドや手すりなど福祉用具を準備したり、通所サービス、訪問看護などの在宅サービスの調整も行います。

生活の場への調整を目的とした中間病院の役割のため、入院期間は60日間（レスパイト入院は14日間）が目安です。



費用について

入院費用は、所得に応じた一般的な医療費で、高額療養費制度の対象です。別途、アメリカ（おむつ+衣類含む生活用品代）の費用負担が必要となる場合があります。

退院先は

自宅や地域の施設（特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、有料老人ホーム等）など生活の場への退院を目指します。

ご相談は、病院の地域連携室、またはお住いの地域包括支援センターや担当のケアマネジャー、かかりつけ医へご相談ください。

〔富田町病院地域連携室 植田光世、富田地域包括支援センター 上田朋加、設備課 松澤力〕